

連絡先：海上保安庁総務部政務課長補佐  
丹羽 哲  
TEL : 03-3591-6361(内線 2103)  
直通 : 03-3580-2083  
FAX : 03-3581-4708(内線 FAX 2169)

平成21年5月12日  
海上保安庁

## 海上保安レポート2009の発刊について

### ○ 海上保安レポート2009の趣旨

海上保安レポートは、海上保安業務に関する最新の情勢と今後の展望を、白書という形式にとらわれず自由な発想で国民にアピールするものです。毎年5月12日の海上保安の日に発刊しています。

編集：海上保安庁 発行：(株) 蔦友印刷 定価：1,000円(税込)

### ○特集

#### 特集1 海難の減少を目指して ～安全な交通環境の実現～

平成20年に交通政策審議会において示された「新交通ビジョン」の内容を踏まえ、新たな海上交通安全に関する施策を紹介しています。

#### 特集2 事故災害に対する海上保安庁の備え

##### ①油等の流出事故への備え ～被害を最小に食い止める～

平成9年に発生した「ナホトカ号海難・流出油事故」及び「ダイヤモンド・グレース号油流出事故」等を踏まえ、海上保安庁が実施した油防除体制の整備や最近における体制強化等の内容について紹介しています。

##### ②地震への備え ～平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震への対応について～

平成20年に発生した「平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震」における海上保安庁の対応を紹介しています。

#### 特集3 海保の海賊対策 ～人類共通の敵への対応～

海上保安庁が今まで東南アジア周辺海域において取り組んできた海賊対策と、昨今、急激に海賊被害が増加してきているソマリア沖・アデン湾における新たな海賊対策について紹介しています。

### ○ 構成

はじめに

TOPICS 海上保安の一年

特集

海上保安庁の任務・体制

本編

目指せ！海上保安官

語句説明・索引、図表索引

資料編

# 海上保安レポート 2009 の発刊について

## 発刊日

海上保安の日である5月12日（火）に発刊。

※ 平成13年にそれまでの「海上保安白書」を「海上保安レポート」に変更して以来、毎年発行。今年で9年目。

## 発刊目的

より自由な発想で写真や図表を多く使用し国民の皆さんに分かりやすく海上保安庁の業務を紹介することを目的として発刊。



## 特色

新たな海上交通安全対策や地震災害への対応、海賊対策を特集。

※ 新たな海上交通安全対策や平成20年に多発した地震災害への対応、ソマリア沖・アデン湾や東南アジアにおける海賊対策といった海上保安庁の重要業務について掘り下げて紹介。

コラムとして各管区海上保安本部等の地域に根ざした業務等を紹介。



## 入手方法等

5月12日（火）より、1冊1000円（税込）にて販売開始。

※ 主な販売窓口  
全国主要書店、政府刊行物サービスセンター、東京メトロ構内売店、都営地下鉄構内売店 等

# 海上保安レポート2009（要旨）

## 特集1 海難の減少を目指して ～安全な交通環境の実現～ (p. 12～25)

海上交通の安全確保は、海上保安庁設立当初より一貫して行っている重要な業務の一つです。平成20年には、交通政策審議会において、海上保安庁が海上交通安全行政の担い手として新たに果たすべき役割と方向性が「新交通ビジョン」として示されました。ここでは、「新交通ビジョン」の内容を踏まえた新たな海上交通安全に関する施策を紹介しています。



## 特集2 事故災害に対する海上保安庁の備え

### ①油等の流出事故への備え ～被害を最小に食い止める～ (p. 26～31)

海上保安庁では、船舶が事故を起こさないよう様々な施策に取り組んでいますが、その一方で、船舶の衝突や乗揚げ事故に伴う油の流出などの事故災害は後を絶ちません。ここでは、平成9年に発生した「ナホトカ号海難・流出油事故」及び「ダイヤモンド・グレース号油流出事故」等を踏まえ、海上保安庁が実施した油防除体制の整備や最近における体制強化等の内容について紹介しています。



### ②地震への備え

#### ～平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震への対応について～ (p. 32～33)

台風や地震などの災害が発生した場合、海上保安庁では、海上においてはもちろんのこと、都道府県等から要請を受けるなどした場合は、内陸部においても被災者の救出や救援物資の輸送などの救援活動を実施しています。ここでは、平成20年に発生した「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」における海上保安庁の対応を紹介しています。



## 特集3 海保の海賊対策 ～人類共通の敵への対応～ (p. 34～39)

近年、海上輸送の安全を脅かす海賊への対応は、航行の安全を確保する上で極めて重要となっています。ここでは、海上保安庁が今まで東南アジア周辺海域において取り組んできた海賊対策と、昨今、急激に海賊被害が増加してきているソマリア沖・アデン湾における新たな海賊対策について紹介しています。



## 海上保安庁の任務・体制 (p.41～48)

海上における安全・安心を担う海上保安庁の業務と体制について、その概要を紹介しています。

### 本編 (p.49～104)

#### 治安の確保(p.49～58)

海上保安庁の密輸・密航、密漁など様々な海上犯罪に対する取組みや、テロ対策、不審船対策について紹介しています。



#### 領海等を守る(p.59～62)

海上保安庁の領海警備や排他的経済水域における権益の保全について紹介しています。



#### 生命を救う (p.63～70)

海上保安庁の海難救助やマリンレジャーの安全推進のための取組みについて紹介しています。



#### 青い海を護る (p.71～76)

海上保安庁の海洋環境保全対策や海上環境事犯の摘発について紹介しています。



#### 災害に備える (p.77～84)

海上保安庁の事故災害対策や自然災害対策について紹介しています。



#### 海を識る (p.85～90)

海上保安庁が実施する海洋調査や海洋情報の提供について紹介しています。

#### 交通の安全を守る (p.91～98)

海上交通ルールの設定、航路標識の設置等を通じた船舶の安全かつ円滑な航行の確保に関する取組みについて紹介しています。



#### 海を繋ぐ (p.99～104)

海上保安庁における国際的な取組みを紹介しています。

## 目指せ！海上保安官(p.105～118)

現場での海上保安官の活動を紹介するとともに、どうすれば海上保安官になれるか、その後の進路はどうなるのかを紹介しています。

